

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準 2	教育研究組織
点検・評価項目(1)	2-1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
評価の視点	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
点検・評価項目(2)	2-2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

2-1	文学部は、日本文学科・中国学科・英米文学科・教育学科・書道学科の五学科より成り、理念・目的、教育目標に照らして、適切な組織となっている。 一方、時代の急激な変化及び 18 歳人口の減少等の要素をふまえ、2013 年に学部学科再編の課題をも含んだ「大東文化大学改革推進会議」が設置され、議論が重ねられている。文学部においても、教育・研究の理念を踏まえ、各学科における現在の学生定員をはじめとする継続的な議論がある。全学的方針との関連において検討と協議を重ねていかねばならない問題であると考えられる。
2-2	定期的な学科協議会、文学部教務委員会、文学部主任会議、文学部教授会、それぞれの場において、具体的には多岐に亘るこの課題に取り組んでいる。

【効果が上がっている事項】

2-1	組織構成員が、この課題に真剣に取り組むようになってきている。
2-2	各学科協議会、教務委員会、主任会議、教授会、それぞれの場における協議を重ね、学部全体の意見を集約可能な体制になっている。

【改善すべき事項】

2-1	学科定員の削減や、組織の改編等は、一学部のみの問題ではなく、全学的課題である。「大東文化大学改革推進会議」の有効な原案を期待すると共に、学部学科においても、将来像を常に検討していく体制が求められる。
2-2	カルキュラム等の在り方について常に検討していく体制を持ち、組織構成員が積極的に問題を検証していくことが求められよう。

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「DAITO VISION 2023」

2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	文学部の「理念・目的に」照らし、現状と理想の双方向からの適合性について検討する。教育の質を高め、保障していく体制を確保出来るかどうか、それを少人数教育を主体とした授業の実施、学生定員の問題、教員定数の問題等において検証する。適切な組織編成について検証する。	教員の側からと学生の側からの双方向の意見を集約し、検討、協議を重ねて行く。文学部教務委員会における各学科からの意見	→					
14 年度 目標	授業評価アンケート結果を、いかにして活用できるのかの検討を行う。		→					